

のみで有つたからこの工場代議員は實に有効であるといふことである。

一一

然し此の代表議員制度に不平を云ふものは佐長職、工場であるといふことである。それは下級から選出せられたものが直接工場代表員と會見するので下級者が云ふことを聞かなくなるといふ不平があるといふ。それで佐長及職長をもその代議員會に出席せしめて居るといふことである。また外の批評は、あまり議論する時間が長いので暇つぶしだとの批評もあるが、騒動があるに比較すると除程利益であるは云ふまでもない。然し下級職工には工場経営の高等政策を知らしめるの可否をも問ふものがあるが、之は實に困難な事業であると認識して居るとレイノールドは云ふて居る。

然し舊式の職長、佐長の専制の時代はもう過ぎたので工場内にもデモクラシーが来たことは拒むことは出来ない。彼は云ふて居る (C. D. Renold, "Shop Committees in Practice" The Survey, March 1, 1916) (參照)

英國政府のホイトレイ委員

社行改造研究の爲めに産れた労働問題研究のホイットレイ委員 (委員長が White) であつた爲にかく呼ばれて居る) は英國で知名の士を集めたが、その中には A. S. E. として知られて居る機械師協會の前理事であるブットン、前食糧大臣クライネス、有名な經濟學者ホブソン、反搾汗制度協會々頭アロン、造船協會長カアター、倫敦ノウフスウエスタン鐵道社長クラウトン、鑛山協會書記ラットク

一三